

I. 事業の状況

(1) 国際的な室内楽コンクールの開催に関する事業

本年度は以下のような事業を実施します。

1. 第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の開催準備

下記の通り多数の応募団体の中から選出された45団体を迎えて開催する第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」開催に向けて、今年度は次の準備活動を行います。

＜第1回～第7回の応募状況＞

区分	第7回	第6回	第5回	第4回	第3回	第2回	第1回
第1部門	35	26	11	15	19	20	12
第2部門	30	35	46	39	54	54	90
フェスタ	146	169	97	126	125	99	108
合計	211	230	154	180	198	173	210

① コンクール終了まで広報宣伝活動に力を注ぐとともに、第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」を成功させるための諸準備を行います。

特に今回は、読売新聞様の後援を得て、新聞の一面広告を4月に実施します。

② プレイバントの一環として、5月中旬に弦楽四重奏団クアルテット・エクセルシオによる「コミュニティー・コンサート・シリーズ」を実施します。学校・病院等でアウトリーチ活動を行います。

2. 第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の開催

5月17日（火）～25日（水）の9日間、いずみホールで開催します。

詳細は次ページ以降に記載。

また、コンクール本選に出場できない参加団体により多くの演奏機会を与えるために、大阪市役所の玄関ホールにおいて、5月21日(土)と22日(日)に、レクチャーコンサートを開催します(入場無料)。尚、講師は、堤審査委員長とミシェル・ルティエク審査委員の予定で準備を進めます。

3. 第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」のまとめ

- ① 後援団体及び協賛企業への実績報告
- ② 読売テレビで記念演奏会のテレビ放送（放送日は未定）
- ③ 記録書の作成と関係先への送付
- ④ 各部門優勝団体のCD製作

第7回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」開催要項

《目的》 「大阪国際室内楽コンクール」は、室内楽に取り組む優秀な音楽家を広く世界に求め、優れた演奏を顕彰し、人材を育成するもので、「国際音楽コンクール世界連盟」の基準に基づいて運営します。またコンクールに併せて、クラシック音楽に留まらず、各国の伝統音楽・民族音楽も包含する「大阪国際室内楽フェスタ」も開催します。このコンクールとフェスタは、室内楽を振興することによって、広範な音楽文化の発展と国際間の文化交流に寄与することを目的として、3年毎に開催するものです。

《期間》 2011年5月17日（火）～5月25日（水）の9日間

《会場》 いずみホール

《部門》 第1部門 **弦楽四重奏**

第2部門 **管楽アンサンブル**(木管五重奏、サクソフォン四重奏、金管五重奏)

フェスタ **2人～6人までの編成で演奏されるアンサンブル**で、楽器の組み合わせは自由。いわゆるクラシック音楽に留まらず、世界各国の伝統音楽・民族音楽の楽器を使用するアンサンブルも参加できる。

《賞金》

部門	賞金		
第1部門	1位：300万	2位：150万	3位：100万
第2部門	1位：300万	2位：150万	3位：100万
フェスタ	ニューイン金賞：200万	銀賞：100万	銅賞：60万

《応募資格》

◇コンクール コンクール開催時16才～35才の演奏者によって構成された団体。
国籍は問いません。

◇フェスタ 年齢、国籍を問いません。

《後援・協賛団体》

後 援 外務省、文化庁、大阪府、大阪市、関西経済連合会、日本演奏連盟、
読売新聞社、いずみホール、OBP開発協議会

協 賛 アサヒビール、岩谷産業、イオン、大阪ガス、鹿島建設、関西電力、サントリー、
三機工業、須賀工業、住友生命、ダイキン工業、東芝、西日本高速、
西日本旅客鉄道、日本たばこ産業、ハウス食品、パナソニック、非破壊検査

特別協賛 日本財団(予定)

賛 助 読売テレビ

主 催 日本室内楽振興財団

第7回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ日程別開催内容

日 時	第1部門	第2部門	フェスタ	審査委員
5月15日(日)	(参加者来日)			(審査委員来日)
16日(月)		(参加者来日)		歓迎パーティー
17日(火)	1次予選			
18日(水)		1次予選		
19日(木)	2次予選		(参加者来日)	
20日(金)		2次予選		
21日(土)	レクチャーコンサート (大阪市役所)		予選(A)	
22日(日)		レクチャーコンサート (大阪市役所)	予選(B)	
23日(月)	本 選	本 選		
24日(火)	表彰式	表彰式	本 選・表彰式	記念パーティー
25日(水)	披露演奏会	披露演奏会	披露演奏会	
26日(木)	(本選参加団体・審査委員帰国)			

第7回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ役員

会 長	秋山喜久	日本室内楽振興財団会長 (関西広域機構会長)
副 会 長	土井共成	日本室内楽振興財団理事長 (読売テレビ放送最高顧問)
審査委員長	堤 剛	桐朋学園大学学長・日本芸術院会員
運営監督	吉江安生	日本室内楽振興財団常務理事
名誉芸術顧問	岩淵龍太郎	京都市立芸術大学名誉教授
顧 問	伊藤京子	日本演奏連盟理事長・日本芸術院会員
	海老澤 敏	日本モーツァルト研究所所長
	日下部吉彦	音楽評論家
	近藤誠一	文化庁長官
	平松邦夫	大阪市長
	三善 晃	作曲家・日本芸術院会員
	井上礼之	ダイキン工業(株) 会長兼CEO
	浦上敏臣	住友生命保険(相) 顧問
	越智常雄	読売テレビ放送(株) 社長
	佐々木隆之	西日本旅客鉄道(株) 社長
	瀬戸雄三	アサヒビール(株) 社友
	鳥井信吾	サントリーホールディングス(株) 副社長
	長岡 實	日本たばこ産業(株) 顧問
	牧野明次	岩谷産業(株) 社長
	森下洋一	パナソニック(株) 相談役
	山口多賀司	非破壊検査(株) 社主
	領木新一郎	大阪ガス(株) 特別顧問

第7回大阪国際室内楽コンクール審査委員

(◆印は、新規審査委員)

◇ 堤 剛 Tsuyoshi TSUTSUMI (審査委員長、日本、チェロ)

桐朋学園の音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ故齋藤秀雄に師事。1961年アメリカに留学し、ヤーノシュ・シュタルケル氏に師事。1988年秋より2006年春までインディアナ大学の教授。2001年より霧島国際音楽祭音楽監督。2004年4月より桐朋学園大学学長の任にあたる。2007年9月サントリーホール館長就任。2009年秋の紫綬褒章を受章。日本芸術院会員。

◆ ハイメ・ミュラー Heime MÜLLER (ドイツ、ヴァイオリン)

1970年生れ。アルテミス・クアルテットの創設に加わり、第1/第2ヴァイオリン奏者として1991年から2007年まで活動する。同クアルテット在籍中の1996年ミュンヘン国際コンクール、翌年にプレミオ・パオロ・ボルチアーニ弦楽4重奏コンクール(イタリア)でそれぞれ優勝し、世界の注目を浴びる。リュベック音楽大学教授。

◇ 藤原 浜雄 Hamao FUJIWARA (日本、ヴァイオリン)

桐朋学園音楽科にて故江藤俊哉、故齋藤秀雄等に、またアメリカのジュリアード音楽院にてジョーゼフ・フックス氏に師事。現在、読売日本交響楽団の首席ソロ・コンサートマスターを務めると共に、桐朋学園大学院大学教授・研究科長、東京音楽大学客員教授。

◆ ジェイムズ・ダナム James DUNHAM (アメリカ、ヴィオラ)

優れた室内楽活動に対して1996年にグラミー賞を授与されたクリーヴランド・クアルテットのメンバー。同クアルテットの一員として活動するかたわら、イーストマン音楽学校とライス音楽大学のヴィオラ教師として教鞭をとる。これまでフィッシュホフ、コールマン等の室内楽コンクールの審査委員を務める。

◆ 川本 嘉子 Yoshiko KAWAMOTO (日本、ヴィオラ)

3歳より才能教育研究会にてヴァイオリンを始める。1991年東京都交響楽団への入団をきっかけにヴィオラに転向。1992年ジュネーヴ国際コンクール・ヴィオラ部門で最高位(1位なしの2位)。東京都交響楽団首席奏者を経て、現在ではソリスト・室内楽奏者として最も活躍しているヴィオラ奏者の一人。京都アルティ弦楽四重奏団のメンバー。

◆ フランス・ヘルメルソン Frans HELMERSON (スウェーデン、チェロ)

G.ベッキ氏、G.セルミ氏、W.プリース氏の各氏に師事。後に指導を受けたM.ロストロポーヴィッチ氏からは大きな影響を受ける。ソリストとして主要なオーケストラに出演する一方、室内楽活動を熱心に行い、ミケランジェロ・カルテットの一員として活動している。フィンランドのコロシヨフ音楽祭の元芸術監督。ケルン大学教授。

◇ **金 昌国** **Chang-Kook KIM** (日本、フルート)

東京芸術大学・大学院在学中に日本音楽コンクール第1位を受賞。1969年に渡欧し、ジュネーブ国際音楽コンクール2位を受賞。1981年帰国し、東京芸術大学で後進の指導に務める。第7回神戸国際フルートコンクールの審査委員長。アジアフルート連盟会長。東京芸術大学名誉教授。

◆ **ミッシェル・ルティエク** **Michel LETHIEC** (フランス、クラリネット)

世界で最も著名なクラリネット奏者の一人で、現在はパリ高等音楽院の教授。教育者として世界各国でマスタークラスを開催するとともに、ソロ奏者・室内楽奏者として活動している。フランス・プラドのパブロ・カザルス音楽祭の芸術監督の他、ミュンヘン、ジュネーブ等の国際コンクールの審査委員を務める。

◆ **クロード・ドゥラングル** **Claude DELANGLE** (フランス、サクソフォン)

1957年フランスのリヨン生まれ。パリ国立音楽院でダニエル・デファイエ氏に師事。1977年にサクソフォン科を、1979年には室内楽科を1等賞で卒業。1986年には指揮者ピエール・ブーレーズ氏の主宰するアンサンブル・アンテルコンタンポランのサクソフォン・ソリストに選ばれる。1992年以降はベルリン・フィルのメンバーとして、世界各地でソリスト・客演奏者として活躍する。一方、1988年にデファイエ氏の後任としてパリ国立音楽院の教授に任命され、後進の指導に当たっている。

◆ **マイロン・ブルーム** **Myron Bloom** (アメリカ、ホルン)

G.セルの率いるクリーヴランド管弦楽団の全盛期の立て役者とも言える伝説的なホルン奏者。1977年までクリーヴランド管弦楽団に在籍し、その後D.バレンボイムに誘われてパリ国立音楽院の教授に任命され、フランスのホルンの音の大改造をする。1985年以降、現在もインディアナ大学教授として若手演奏家を指導している。

◆ **ラインホルト・フリードリッヒ** **Reinhold FRIEDRICH** (ドイツ、トランペット)

1958年生まれ。7歳でトランペットの演奏を始め、カールスルーエ音楽大学で研鑽する。1986年ミュンヘン国際コンクールで優勝し、以降世界の主要な音楽シーンに登場している。バロックトランペットを使い古楽を演奏する一方、現代作曲家の最新の曲をしばしば演奏し、音楽活動の幅は広い。カールスルーエ音楽大学教授。

◆ **呉 信一** **Shin-ichi GO** (日本、トロンボーン)

大阪音楽大学卒業後、大阪フィルハーモニー交響楽団に入団。1975年デットモルト国立音楽大学に留学。W.ヴァルター氏に師事。大阪文化祭奨励賞、本賞受賞。大阪フィルハーモニー交響楽団首席トロンボーン奏者として、20年間にわたる演奏活動の後、サイトウ・キネン・オーケストラなどでの活動の他、室内楽やソロの分野でも幅広い演奏活動を行っている。京都市立芸術大学教授。

第7回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ出場グループ

第1部門 (10 団体)

	グループ名	楽器編成	国名	特記事項
1	アタッカ・クアルテット Attacca Quartet	弦楽四重奏	アメリカ	2006年コールマン室内楽コンクール入賞 2007年カーネギーホールデビュー
2	ハイピリオン弦楽四重奏団 Hyperion String Quartet	弦楽四重奏	アメリカ	フィショフ室内楽コンクール銅賞 コールマン室内楽コンクール優勝 第6回大阪国際室内楽コンクール出場
3	ペレソン・クアルテット Peresson Quartet	弦楽四重奏	アメリカ	2010年バンフ国際弦楽四重奏コンクール出場
4	ナヴァラ・クアルテット Navarra Quartet	弦楽四重奏	イギリス	2005年ヴィットリオ・ガイ国際室内楽コンクール 優勝 (イタリア) 2007年メルボルン国際室内楽コンクール第2位 (オーストラリア)
5	ソルスティス・クアルテット Solstice String Quartet	弦楽四重奏	イギリス	2009年王室国際リーグ(ROSL)優勝 (イギリス)
6	ジェモー・クアルテット Gémeaux Quartett	弦楽四重奏	スイス	2007年ミグロスカルチャーパーセント 室内楽部門優勝 (スイス) 2008年ARD ミュンヘン国際音楽コンクール 弦楽四重奏部門3位 (ドイツ)
7	アマリリス・クアルテット Amaryllis Quartett	弦楽四重奏	ドイツ	2005年チャールズ・ヘンネン・コンコース 国際室内楽コンクール (オランダ) 2008年トロンプ国際音楽コンクール (オランダ) 2009年グラッツコンクール (オーストラリア)
8	ノガ・クアルテット Noga Quartett	弦楽四重奏	ドイツ	バンフ国際弦楽四重奏コンクール出場 (カナダ) アリス・サムター室内楽コンクール第3位 (ドイツ) ハイメ・ミューラー、ジョージ・シングル、 アルバンベルグ・クアルテットに師事
9	シューマン・クアルテット Schumann Quartett	弦楽四重奏	ドイツ	2009年デュッセルドルフのロバート・シューマン・ ホール「アーティスト・イン・レジデンス」 アルバンベルグ・クアルテットに師事
10	ウェールズ弦楽四重奏団 Verus String Quartet	弦楽四重奏	日本 (在スイス)	2008年ARD ミュンヘン国際音楽コンクール 弦楽四重奏部門3位 (ドイツ) 原田幸一郎、東京クアルテット、 ライナー・シュミットの各氏に師事

第2部門 (12 団体)

	グループ名	楽器編成	国名	特記事項
1	ソノリテ SONORITE	木管五重奏	韓国	韓国芸術協会より賞を授与される 2008年より毎年コンサートを開催
2	アリラング・クインテット arirang-Quintett	木管五重奏	ドイツ	2004年シュヴェリーン国際室内楽コンクール第2位 2005年国際木管五重奏コンクール 「アンリ・トマジ」第2位 2005年第5回大阪国際室内楽コンクール第2位
3	アンサンブル・ミクスト Ensemble mixt	木管五重奏	日本	2006年東京芸術大学学内にて結成。 小林裕、守山光三各氏に師事
4	ボーダーズ Borders	木管五重奏	日本	第10回日本アンサンブルコンクール室内楽部門 優秀演奏者賞および全音楽譜出版社賞受賞 第1回日本芸術センター室内楽コンクール銀賞
5	ザイジクス・カルテット ZyzyxQuartet	サクソフォン四重奏	アメリカ	2008年北米サクソ協会四重奏コンクール第2位 プロウマン室内楽コンクール準決勝出場
6	メリスマ・サクソフォン四重奏団 Melisma Saxophone Quartet	サクソフォン四重奏	オランダ	2010年ヤマハ国際サクソフォン・コンクール出場 (スペイン) 2010年パッサウ・フェスティバルにてコンサート 開催 (オランダ)
7	シグナム・サクソフォン四重奏団 Signum Saxophone Quartet	サクソフォン四重奏	ドイツ	第14回トルネオ国際音楽コンクール室内楽部門 優勝 (イタリア)
8	モーフィン・カルテット Morphing Quartet	サクソフォン四重奏	フランス	クロウド・デランギ、デービット・ウォルター、 クリストファー・ボイス、ミッシェル・モラゲス 各氏に師事
9	サクソフォン四重奏団 桜 Saxophone Quartet Sakura	サクソフォン四重奏	日本	2009年ルーマニア国際音楽コンクール室内楽 部門第2位および特別賞としてルーマニア音楽 協会理事会賞を受賞
10	アクシオム・ブラス Axiom Brass	金管五重奏	アメリカ	フィスチョフ室内楽コンクール第3位 (アメリカ)
11	イン・メディアス金管五重奏団 In Medias Brass Quintet	金管五重奏	ハンガリー	2010年第11回パッサウ管楽器国際コンクール 優勝 (ドイツ) 2010年済州国際金管楽器コンクール五重奏部門 優勝 (韓国)
12	レガシー・ブラス・クインテット Legacy Brass Quintet	金管五重奏	日本	2010年シルヴァン・カンブルラン氏が作曲した 「金管五重奏のためのディベルティマン」を 日本初演 杉本峰夫氏に師事

フェスタ (23 団体)

	グループ名	楽器編成	国名
1	ZOFO duet ゾフォ デュエット	ピアノデュオ	アメリカ
2	enhakē インハーキ	ピアノ、バイオリン、 チェロ、クラリネット	
3	Duo MSM デュオ・エム・エス・エム	ピアノ、バイオリン	
4	SIMA Trio シマ・トリオ	ピアノ、バイオリン、チェロ	
5	Duo conCorde Vienna デュオ・コンコルデ・ウィーン	バイオリン、ハープ	オーストリア
6	BULSECHUL ブルセチュル	弦(奚琴、コムンゴ、ギター) 管(大琴、ピリ) パーカッション(チャング)	韓国
7	Duo Joncol デュオ・ジョンコル	ギター×2	スイス
8	Nepomuk Quintet ネポムク・クインテット	ピアノ、バイオリン、ビオラ、 チェロ、コントラバス	チェコ
9	Duo Teres デュオ・テレス	バイオリン、ギター	
10	Spark スパーク	ピアノ、バイオリン/ビオラ、 チェロ、リコーダー×2	ドイツ
11	Eight Strings エイト・ストリングス	バイオリン、チェロ	
12	Guitar Duo Klingeberg - Montes ギターデュオ クリンゲベルグ - モンテス	ギター×2	
13	Duo kalyпсо デュオカリプソ	ピアノ、サクソフォン	フランス
14	Essential Duo エッセンシャル・デュオ	ピアノ、バイオリン	ポーランド
15	Kwadrofonik クワドロフォニーク	ピアノ×2、パーカッション×2	
16	CARION カリオン	フルート、オーボエ、クラリネット ファゴット、ホルン	ラトビア
17	VAIVORA ヴァイヴォラ	カンクレス×3、パーピネ×2、	リトアニア
18	Trio "CLASSIC WITHOUT BORDERS" トリオ「国境なきクラシック」	ピアノ、ドムラ×2	ロシア
19	Magic Trio マジック・トリオ	ピアノ、ドムラ、バラライカ	
20	Lad ラート	ドムラ、アコーディオン	
21	Style - Quartet スタイル・クアルテット	ドムラ×2、バヤン、 コントラバスバラライカ	
22	ピアノデュオ 遠山沙織&大石真裕	ピアノデュオ	日本
23	兄弟デュオ	ピアノデュオ	

(2) 室内楽の演奏会の開催

本年度は以下のような事業を実施します。

1. グランプリ・コンサート2011の開催

2011年5月の第7回「大阪国際室内楽コンクール」第1部門(弦楽四重奏)で優勝する団体を招聘して「グランプリ・コンサート2011」を開催します。

今年は、11月4日(金)札幌公演を皮切りに、11月22日(火)大阪公演まで全国10会場での開催です。

2. 出演：未定

第7回「大阪国際室内楽コンクール」第1部門の優勝団体が出演しますが、当該団体は、5月23日(月)のコンクール本選で決定します。

3. 全国公演日程と公演地 (予定)

公演地	開催日	公演会場
札幌	11月4日(金)	STVホール
熊本	11月6日(日)	益城町文化会館
大分	11月8日(火)	別府大学大分キャンパス文化ホール
高岡	11月10日(木)	富山県高岡文化ホール
三重	11月12日(土)	三重県文化会館小ホール
兵庫	11月13日(日)	淡路市立しづかホール
広島	11月15日(火)	庄原市民会館
長野	11月17日(木)	松本市波田文化センター
東京	11月20日(日)	津田ホール
大阪	11月22日(火)	いずみホール

4. 「グランプリ・コンサート2011」全国担当者会議の開催

コンサートを成功させるため、6月10日(金)に大阪で全国担当者会議を行います。

(3) 室内楽に関する各種活動への助成事業

本年度は以下のような事業を実施します。

1. 平成23年度助成金交付予定事業

室内楽の優秀な演奏活動及び教育普及活動に対し助成金を交付しています。

平成23年度助成金交付事業の選考委員会は平成23年2月7日(月)に開催、藤田委員長が欠席のため三宅委員が議長となり議事が進められ、結果、申請総数15件のうち対象外3件、選考前辞退が1件、残り11件を厳正な審議の結果下記の8件が選考されました。

選考委員

委員長	藤田 由之	指揮、評論
委員	青澤 隆明	評論
委員	根岸 一美	同志社大学教授
委員	三宅 幸夫	慶応義塾大学教授
委員	横原 千史	評論

平成23年度助成金交付予定事業

	事業名	申請者	開催地
1	ストラヴィンスキー連弾版によるバレエ作品	大宅 さおり	東京
2	岡井直子ピアノトリオ	岡井 直子	東京
3	俣野修子室内楽シリーズ”楽興の時” 第3回 -BRAHMS-	俣野 修子	大阪
4	Piano Duo Concerto	あ・みゅーず・めんと松野 晴恵	東京
5	ドイツカンマーゾリステン講習会2011 ドイツカンマーゾリステン「講師と受講生によるジョイントコンサート」 ドイツカンマーゾリステン室内楽コンサート	ドイツカンマーゾリステン 飛田 勇治	名古屋
6	クアルテット・ウィークエンド2011-2012	特定非営利活動法人トリトン・アーツ ネットワーク 理事長 長浜 力雄	東京
7	神戸国際芸術祭2011 小学生のための楽しいコンサート	神戸国際芸術祭実行委員会 実行委員長 藤野 一夫	神戸
8	ワンコイン室内楽コンサート	浜川 慎司	東京

2. 平成24年度助成金申請受付

平成24年度の助成金申請受付は、平成23年9月1日から平成23年10月31日までの予定です。

3. 選考委員会の開催

平成24年2月には、選考委員会を開催し平成24年度の助成金交付事業の選考を行う予定です。

(4) 室内楽に関する調査研究事業

本年度は、以下のような事業を実施します。

本事業の委員会では、2005年から2009年までの5年間にわたる近畿地区での室内楽演奏会活動の実態調査の結果を集計、そのデータを精査し室内楽の普及に向けた指針を探ることを目指して、今年度は最終的なまとめを行う予定です。

委員長	梅本 俊和	大阪音楽大学名誉教授
委員	網干 毅	関西学院大学教授
委員	黒川 浩明	大阪アーティスト会長
委員	根岸 一美	同志社大学教授

